

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	双海地域公民館活動事業	会計名称	一般会計		担当課	社会教育課	
		予算科目	10 款 5 項 2 目	事業番号	4720-3	所属長名	泉一人
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	石崎恵美	
法令根拠等	社会教育法、伊予市公民館設置条例				実施期間	【開始】	令和/平成 23 年度
総合計画での位置付け	生涯学習都市の創造 生涯にわたり学習できる環境づくり					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	企画段階からの市民参加を図りながら、各種講座や事業を展開することで、住民自治意識の向上を図るとともに、生涯学習・活動の場づくりを行う。						
事業の対象	市民	事業の目的		住民自治能力の向上を目指して、市民の仲間づくり、健康増進、生きがいがづくりに寄与する。			
事業の内容 (整備内容)	各種講座や事業の開催、社会教育関係団体との連携、地域・家庭・学校等とのコーディネートを行う。		昨年度の課題に対する具体的な改善策		コロナ禍により事業が中止となった場合は、代替事業を企画することにより、前例踏襲でない新しい事業を実施する。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	3年度予定	9月末の実績	3年度実績
直接事業費	426	2,155	△ 1,301	0	0	805	青少年健全育成	回	9	10	3	9
財源内訳						0						
国庫支出金		0	0	0	0	0						
県支出金		0	0	0	0	0						
地方債		0	0	0	0	0						
その他	28	15	0	0	0	0	高齢者教室	回	1	5	0	1
一般財源	398	2,140	△ 1,301	0	0	805						
職員の人工(にんく)数	0.99	1.25				1.25	成人学級	回	9	22	10	22
1人工当たりの人件費単価	7,812	7,841				7,841						
※ 直接事業費+人件費	8,160	11,956				10,606						
主な実施主体	直接実施		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)				コミュニティ事業	回	0	4	0	2
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	5年間の合計		
					2,000	1,800	1,800	1,800	1,800	9,200		
成果指標	指標	各種事業・学級の活動回数	単位	回	⇒	区分年度	前年度	3年度	4年度	目標	毎年度	
	指標設定の考え方	公民館が核となって、地域のニーズに合わせた学習の機会を提供できているか判断する。		目標		45	45	45	45			
	指標で表せない効果	開催規模や参加対象者が様々であり、教室・学級単位での開催回と事業規模との整合性がとりにくい。実施回数が少ないものも、中身が充実した事業としてカウントしている。		実績		19	34					

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		コロナ禍による事業延期、中止などによる計画変更が住民の活動のモチベーションを低下させた。																
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題	わくわく生活体験夕焼け村において、例年の参加者負担金に加え宿泊料の一部を受益者負担として求めることができた。					
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1			5 4 3 2 1	青少年育成については、夕焼け村開始から20年が経過し一定の成果をあげている。立ち上げ当初の参加者は中学生、大学生となりジュニアリーダーとして活躍している。今後は、ジュニアリーダーの育成に力を注ぐことにより、さらなる種まきが必要になると思う。また、地域の課題を「ふるさとの人材育成」と捉えた場合、自然体験を中心とした既存の活動内容を変える必要がある。			
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1			5 4 3 2 1				
		事業の効果	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1		14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A				
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1				14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A		
		施策への貢献度	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B
		手段の最適性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1		14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B				
		コスト効率	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1				14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B		
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B
		一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1		5 4 3 2 1	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D				
				社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1		5 4 3 2 1		14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A		
				市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1		5 4 3 2 1				14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A
事業の効果	5 4 3 2 1		5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A							
成果向上の可能性	5 4 3 2 1		5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1			14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A					
施策への貢献度	5 4 3 2 1		5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A		
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A			地域の特色にあった公民館活動を推進する。前例踏襲によらず、工夫を凝らした事業展開を図る。				
	コスト効率	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1			14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A					
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A		

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
			【行政評価委員会委員選定事業】	
			<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。			
<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。			

行政評価委員会の答申	外部評価	<p>答申の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画段階から市民参加を図りながら、住民自治意識の向上を図るという観点はすばらしい。全域に広げてもらいたい。 ・地域の祭りや伝統行事、地域全体の行事を実施するのは、公民館が核にならないと難しい。前例踏襲と思われるかもしれないが、それもやはり必要なものである。引き続き、地域に根ざした活動を展開してもらいたい。 ・成果指標は開催回数ではなく、公民館活動に参加した人の声などを採用し、魅力的な活動かどうか判断すべきである。 ・どこかの公民館が結節点となって、ノウハウ等を情報共有すれば、伊予市全体の盛り上がりに繋がるだろう。 ・公民館活動だけでなく、社会教育自体が見向きされない状況である。社会教育の閉塞感や停滞感、マイナスイメージを払拭する手立てが必要である。これまでの社会教育から脱却し、新しいサービスを提供することが求められている。
------------	------	---

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性		コメント欄 公民館同士が横連携し、市民の興味を惹きつけるような事業の展開を検討すること。
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	